

子どもたちとつくる「あまやまの里山」

H26年度ふくおか地域貢献活動サポート事業

協議体「あまやま里山環境保全の会」

代表 藤野貫治

(天山ふれあい会・天山子ども会育成会・天山地区中学生育成会)

事業の目的

里地里山は多種多様な生物が守っていることを体験活動によって実感させる。また、里地里山の保全は地域の人々によって守られている、つまり自分たちで守らなければ守れないことを学ばせる。

筑前風土記に記述してある徐福伝説「童男弔女岩」(どうなんかんじょいわ)下の雑木除伐採箇所に筑紫野中学校生徒・阿志岐小学校児童・天山区子ども・天山区民とともにアジサイを協働で植栽するよろこび、さらには、童男弔女岩・阿志岐山城を訪れる市民に登山や散策を楽しんでもらうよろこびを共有させたい。

活動場所(自然観察;筑紫野市御笠地区宮地岳西麓一体・「あまやまアジサイ園」:童男弔女岩下の斜面



報告書作成:あまやま里山環境保全の会事務局長 井上元生 TEL:092-926-2891

E-mail:inouemotoo1940@chime.ocn.ne.jp

HP:天山の史跡・自然

一、平成26年8月8日「自然観察・生態モニタリング調査・指標の木の名札つけ」の報告

1. 8月8日参加者総数

項目	自然観察会 (山歩き)	ソウメン流 し竹樋設置	ソウメン ゆがき	参加者 総数	ソウメン寄贈 多数
総数	47	7	7	61	
大人	7	7	7	20	ソウメンつゆ寄贈 佐伯堯樹さん
NPO職員	2			2	
講師	5			5	ブルーベリー ミニトマト寄贈 高山スミ子さん
小中学生	33			33	

2. 受付・出発式：8時～8時30分

1. 出発式 ●代表 藤野貫治あいさつ
- 班別の点呼と講師の先生の説明（4班）



- 出発の後、すぐに先生への質問
- 80歳の入江先生を先頭に



この日は、台風1号の接近で、天候がどうなるかと心配しました。朝3時ごろからパソコンでの天気図（筑紫野市の雨雲の動き）を見つめながら、決行か延期かを判断していましたが、6時ごろに雲の切れ間が続いていたので「決行・実施」ということにしました。

●葉っぱをムササビが食ったかみ跡 ●カマキリがセミをたべている貴重な場面 ●いよいよ稜線に向けて出発



●指標の木に名札をつける（35種類の樹木の幹に食い込まないようにスプリングで取り付ける。）

●イロハモミジ ●コナラ シイタケ栽培や木炭に利用 ●アオハダ 皮の薄い表皮を削ると『肌が緑色』



●キノコ1：名まえわかりません ●キノコ2：名まえわかりません ●マンネンダケ



●シイの木の盤根

●ゴンズイの実

●アカハライモリ



●下山次第、子どもたちは、ソウメン作りの方々によってセットされたソウメン流し台で、おいしくソウメンをいただいた。高山スミ子さんから頂いたミニトマト、ブルーベリーも流した。



●ワークショップ（森林インストラクターによる森林の働きを紙芝居で学習後、班ごとに観察会のまとめをする）



●班ごとに自分たちで撮ってきた観察で一番印象に残った写真を張り付けて報告図をつくっていく（講師との楽しそうな語らい）



●初めて班員になった仲間と力を合わせて、よく頑張りました。

班分けは、同学年を中心にしました。（異年齢の組み合わせると、小学生は中学生に頼ってしまったり、上位学年生に頼ってしまったりして、観察したことが自分のものにならない。）

小学生は小学生なりに、中学生は中学生なりに、それぞれ、学校での学習積み上げの力を発揮しました。

●五感で感じ取ってきた自然を、自分のことばでまとめていくことによって、しっかりした知識となって身についていく。

●報告の仕方も、年齢に応じて工夫がありました。小学4年生中心の班では、先生の手助けあり、中学生は班の中で持ち分があり、3班では先生にインタビューをしながらの報告あり、4班は代表が苦戦しながらの報告ありでした。



●感想文2班 中学2年生 瀬口 佳奈

初めて、「あまやま里山環境保全の会さんの自然観察会に参加して、最初は、どうだろうと思っていたけど、観察してみて楽しかった。！！

今まで登山や観察をしたことがなかったから、ゆっくりと自然を見ながら、“どんな植物・虫か”“どんな成長するのか。”がよくわかり、どのような名前かも分かった。私は、この地区じゃないけれど、山のことを深く詳しく、楽しく知れたので、好きになりました。また、この次もこの行事があったら来たいです。

今日、図鑑をもらったので、自由学習で使う資料にしようと思います。山は、結構歩くのがきつかったけど、木の周りのキノコや木の手ざわり感、名前、種類がわかった。川は、小さかったけど、カニがいて、ちょっとびっくりしました。楽しかったです。

二、平成26年12月14日「あまやまアジサイ園をつくろう」の報告

あまやまアジサイ園の場所



1. 参加者数：93人

筑紫野中学校生徒・親	阿志岐小学校児童・親	天山子ども会と保護者	天山ふれあい会会員と区民	合計
37人 3人	5人 2人	14人	32人	93人

2. 前準備

(1) あまやまアジサイ園箇所(30m×30m)の下草刈 (2) 品種別移植指定場所のなわ張り



- 11月23日には、気持ちよく、楽しく移植してもらうために、天山ふれあい会会員7人で下草刈りをしました。
- 12月7日には、アジサイ苗18種類312株の品種別にまとめて植えた方が美しいとの園芸農家の意見を取り入れて、品種別に移植する区画のなわ張りをしました。

12月14日「あまやまアジサイ園をつくろう」9時高木神社で受付～終了12時

●出発式、藤野代表のあいさつに続き、植え方などの諸注意の後、アジサイを植えるところに移動



●家族ぐるみで、高齢者と中学生などで班編成、ひと班12株のアジサイ苗を植えました。



●高齢者と中学生の協働作業、素晴らしい。



宋の時代の中国古典

「古文真法」に『木を植える時は、子どもを育てるように注意し・・・』とあります。小中学生には自分が親にやさしく愛し育てられたように「アジサイの苗をそのように丁寧に植えなさい」と話しました。



●最後に 参加の天山区民で看板を立てる



●植え付けが終わり、高木神社で天山区有志の皆さんでつくってもらったアツアツの豚汁とおにぎりをほおばる。



紫陽花の植樹

老人会会長 村組 中村和子

北風吹く寒波の中、大勢の方が参加され、植樹は始まりました。私が、子どものころは「トウナンカンジョ」と言って、自然を満喫して、枯枝を拾って薪にしたり、春は山菜とり、秋は栗拾いや自生するシイタケをとったり、季節を感じ成長しました。

今回 小中学生、保護者、区民の方々とそれぞれに花の苗を抱えて山道を登りました。決められた場所に思い思いに植えました。私は「クミコ」という苗を植えました。植えるのに穴を掘るのが大変！スコップを使い斜面を掘り、花苗を入れて土をかけてやさしく踏み固め、自分の名札を支柱にさげて終了しました。

高木神社に戻ると、ブタ汁、おむすび、お漬物と食事が用意され、皆さんでおいしくいただきました。